

## 令和元年 設計課題 美術館の分室

## I. 設計課題

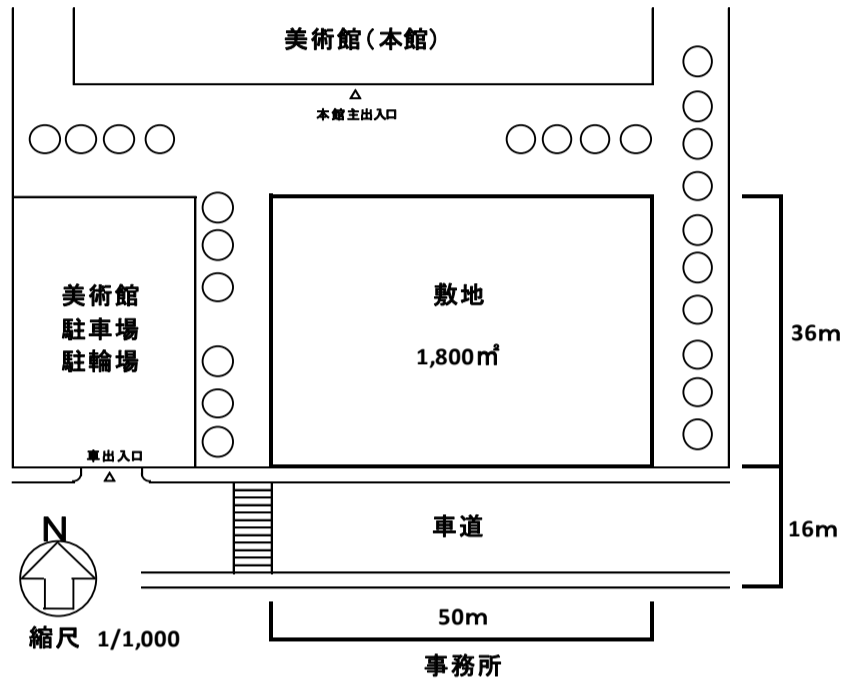
## I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の中心市街地に建つ美術館に隣接する敷地において、市民の創作活動の支援や展示等を行うための「美術館の分館」を計画するものである。

本施設は、市民の芸術活動の活性化を図る展示空間や、施設利用者が憩いの場となる屋上庭園を併せもち、豊かな市民文化の形成と地域住民の交流の場となるように計画する。また、計画に当たっては、バリアフリーに配慮すると共に、環境負荷低減のため、自然エネルギーを利用し、快適な室内環境が得られるような設計手法（パッシブデザイン及びアクティブデザイン）を、積極的に取り入れるものとする。

## 1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、準住居地域及び準防火地域に指定されている。また、建蔽率の限度は70%、容積率の限度は200%である。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤の状況は良好であり、杭打ちの必要はない。
- 気候は温暖で、地下水及び積雪についての特別の配慮はしなくてよい。



## 2. 建築物

- 構造・階数等  
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計  
床面積の合計は、2,300㎡以上とする。  
この課題の床面積の算定において、ピロティ、塔屋、エレベーターシャフト、バルコニー、及び屋外階段については床面積に算入しないものとする。
- 要求室  
下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
展示部門	市民展示室	・市民の企画展示、作品発表等に利用する。 ・3室に分割して個別に利用できるようにする。 ・無柱空間とし、天井高さ5m以上とする。 ・自然光を取り入れた展示空間とする。	約300㎡
	常設展示室	・絵画、工芸作品等を展示する。 ・受付カウンターを設ける。	約100㎡
	展示資料室	・過去に発表された市民作品等を展示する。	適宜
	休憩コーナー(1)	・テーブル及びソファを設ける。	適宜
育・普及活動部	アトリエ	・絵画等のアトリエ等の実習、指導をする。 ・30人程度が利用できるようにする。 ・作業机、椅子、流し台を設ける。	約100㎡
	美術資料室	・図書や映像資料を閲覧できる。 ・映像を映す大型スクリーンを設ける。	適宜
	休憩コーナー(2)	・テーブル及びソファを設ける。	適宜
共用部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・1階から3階までの吹抜けを設ける。	適宜
	コンセプトルーム	・美術等を通じて、市民が交流を図れるような室を想定し、自由に提案する。 ・設け(什器、設備機器等)を設ける。	約150㎡
	喫茶室	・30席程度の椅子席を設ける。 ・厨房、カウンターを設ける。 ・外部から直接アプローチできるようにする。 ・屋外テラスを隣接させる。	約100㎡
	売店	・美術関連商品を販売する。	適宜
管理部門	事務室	・4人分の事務スペースを確保する。 ・受付カウンターを設ける。	適宜
	施設長室		適宜
	休憩室		適宜
	職員控室	・男女別に設ける。	適宜
	指導員控室	・男女別に設ける。	適宜
	守衛室		適宜
	収蔵庫	前室を設け、温室管理にも配慮する。	約100㎡
	荷解室	・美術品搬入車が荷の上げ下ろしを行う。	約100㎡
	設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水衛生、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。	適宜
・便所及び倉庫については適切に計画する。			
・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

## 3. その他の施設等

- 屋上庭園(100㎡以上、直径5mの円が入るもの)を1階又は2階の屋上に設ける。日照及び景観に配慮し、通路、ベンチ、テーブル、植栽を計画する。
- 屋外テラス(50㎡以上、テーブル、椅子)を地上に設ける。喫茶室の屋外に設け、一体的に利用する。
- 駐車場は、車椅子利用者用として2台分、サービス用として1台分を設ける。なお、利用者及び職員等の駐車場は、美術館駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- 駐輪場は、美術館駐輪場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- (1)～(4)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

## 4. 計画に当たっての留意事項

- 敷地の周辺環境及び隣地の美術館(本館)に配慮する。
- 建築物はバリアフリー、省エネルギー及びセキュリティに配慮する。
- 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とともに、避難等に配慮する。
- 自然採光及び自然通風を積極的に取り入れる計画とし、日射の遮蔽に配慮する。
- 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
- 構造種別、架構形式、スパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法とする。
- 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれがある部分には、所定の防火設備を計画する。また、防火区画(面積区画・堅穴区画)が必要な部分には、所定の防火設備を計画する。なお、本建物には、自動式のスプリンクラー設備等を設けないものとし、「避難上の安全」「避難上の安全の検証」を行わないものとする。
- 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設けるとともに、環境負荷低減に配慮する。

## II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

## 1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、必要に応じて、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 兼配置図 1/200	① 各階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積
(2) 2階平面図 1/200	ニ. 設備シャフト【(パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS))】の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース
(3) 3階平面図 1/200	ヘ. 断面図の切断位置 ト. 要求室の特記事項に記載されている什器等 チ. 延焼のおそれのある部分の位置(一点鎖線で図示する)。防火設備、防火区画に用いる防火設備の位置及び種別(凡例と名称を記入し図示する。)
(4) 断面図 1/200	① 断面位置は、市民展示室を含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。 なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 基礎、壁、梁及びスラブの断面を図示する。 ④ 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。

## 2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

- 建築面積を記入し、その算定式も記入する。
- 各階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

## 3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の(1)～(10)の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

- 建築物のアプローチ計画及び動線計画について考慮したこと
- コンセプトルームについて使用目的及び設けを提案する
- 採用したパッシブデザインについて考慮したことを2つ記述する
- 採用したアクティブデザインについて考慮したことを2つ記述する
- 建築物に採用した構造種別、架構形式、スパン割りに関して考慮したこと
- 市民展示室を無柱空間とするために構造計画で考慮したこと
- 採用した基礎方式と、その選定理由について考慮したこと
- 市民展示室の空調方式と、その選定理由について考慮したこと
- 給排水衛生設備における省エネルギー手法を具体的に記述する
- 電気設備における省エネルギー手法を具体的に記述する